

伊那中央病院様

所在地	長野県伊那市小四郎久保1313番地1
開院	1947年7月
一般病床	390床
感染症病床	4床
業種	病院
事業内容	内科・外科・神経内科などの標榜診療科、専門外来、健診センターほか
URL	http://www.inahp.jp/
導入製品	AssetFinder/Sdcontainer 5.0 V/TRAVENTY V



USBメモリ+AssetFinderでセキュリティを強化

伊那中央病院診療
情報管理室

田畑 善弘 氏

■セキュリティUSBメモリの主な利用用途

医師、看護師の学会の発表や講演情報の持ち出し、外部委託業者との検査データの受け渡し、オフラインPCとのデータ移送

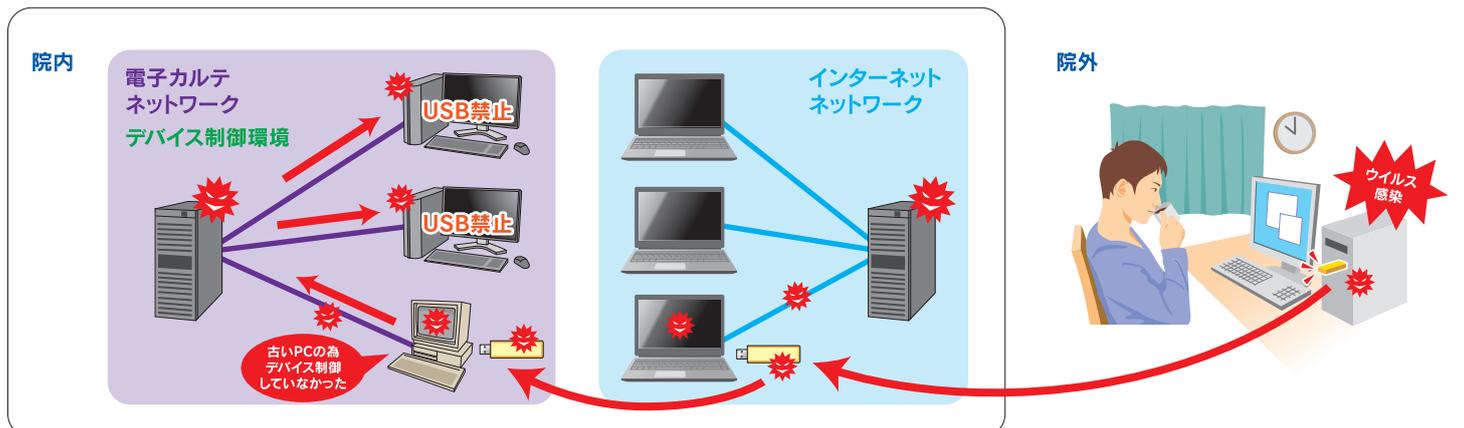
導入のきっかけはUSBメモリを介したウイルス感染

医療記録の適正管理、安全管理の徹底に努めている伊那中央病院。院内ではセキュリティ強化のため電子カルテとインターネットのネットワークは別にしており、個々に独立したネットワークを確立している。そのため、電子カルテなどのデータ移送手段として日常的に看護師、医師、全ての関係者がUSBメモリを使用している。

二年前、USBメモリを介して電子カルテのネットワークの端末にウイルスが侵入、その端末を発端として院内のサーバにまでウイルス感染が広がる事態になった。

「当時、電子カルテの端末はシステムでUSBメモリを使用

できないよう制御していましたが、一部制御をしていない古い端末があり、その端末でUSBメモリを使ったことが原因でした。また院内のセキュリティポリシー（ルール）でUSBメモリの使用は禁止としており、電子カルテの端末ではUSBメモリはシステムで使えないように制御していたので、USBメモリに関して、特に規制はなく、制御のされていないインターネットの端末等では個人の持ち込んだUSBメモリが使える状態でした。今後のセキュリティ対策をどうしようかと考えていた際にイーディーコントライブ社からウイルス対策機能付きのセキュリティUSBメモリの製品DMが届き、ほぼ即決で導入を決定しました。」と同病院の田畑善弘氏は導入の背景を振り返る。



USBメモリ+AssetFinderでセキュリティを強化

現在、同病院では全端末に情報漏洩対策ソフト「Portshutter」を導入しており、イーディーコントライブ社のセキュリティUSBメモリ以外使用できない運用にしている。PCの台数は電子カルテのネットワークで450台、インターネットのネットワークで300台。USBメモリは100本程度導入しており、医師一人に1本、あとは部署で貸出運用をしている。

USBメモリはもちろんトレンドマイクロ社のウイルス対策ソフトTMUSBを搭載したUSBメモリ、Vシリーズを採用。さらに、資産管理サーバソフトAssetFinderも同時に採用した。

ウイルス検知機能搭載 (Vシリーズのみ)

トレンドマイクロ社製USBメモリ用ウイルス対策ソフト「Trend Micro Security for Biz (TMUSB)」は、USBメモリに書き込まれた不正ファイルを自動的に検知/隔離をします。



「USBメモリの導入後は、棚卸しを始め管理をAssetFinderが行ってくれるので、特にUSBメモリの管理において常務でしていることはありません。初期設定のみ行い、配布した後は、年に2回棚卸しを自動で行ってくれるので、運用負担もなく、非常に助かっています。

また、院外へデータを持ち出す際はイーディーコントライブ社のセキュリティUSBメモリを使用するよう徹底しています。やはりデータが暗号化されている点と万一紛失した際もAssetFinderで『どの端末で最後にUSBメモリが利用されていたのか』等確認できるので安心ですね。」と導入後の運用について田畑氏は語る。



AssetFinder導入で得たセキュリティ効果

資産管理サーバソフトAssetFinder。棚卸しを行うことで期待できる効果として紛失や盗難、無断持ち去り防止効果が挙げられる。

「当院では医師が異動の際、支給のUSBメモリを無断で次の赴任先の病院へ持っていってしまうケースがあったのですが、棚卸し期間中に院内ネットワークで使用しないと使えなくなる設定にしているため、無断で持ち帰ってもUSBメモリが使えなくなり、病院に返しに来ます。これによって院内データの無断持ち出しを阻止、情報漏えいリスクを軽減することができます。」と田畑氏はその具体的な効果について話す。

USBメモリの詳細ログ取得

現在、同病院ではイーディーコントライブ社のセキュリティUSBメモリを導入して2年以上経過している。

「運用上今のところ不便な点はありません。ユーザの立場から見ても、パスワード認証後は普通のUSBメモリと同様に使用できるので不便はないと思います。他にもセキュリティ投資をしたい分野は多々ありますが、現状は今の運用で満足しています。ただ管理者の立場から欲を言えば、資産管理ソフト (AssetFinder) で取得できるログ情報の範囲がもっと広がると思います。例えば、USBメモリ使用時に利用したデータに関するログ (利用ファイル情報等) の管理もしていきたいです。そのため、今後はTRAVENTY SuperVisionのSV機能の購入を検討していきたいと考えています。」と今後の展開について田畑氏は語る。

SV機能月額利用ライセンス

SV機能は、USBメモリのファイル操作履歴を収集するためのオプション機能です。



操作ログ一覧	ファイル & フォルダ	コピー/移動 作成 名前変更 削除 別名保存
	ファイル	実行
	CD/DVDへの書き込み	
	パスワード認証プログラムの実行	
	認証プログラム実行結果	
	無効化設定によるロック・初期化	
	制御期間未使用によるロック	